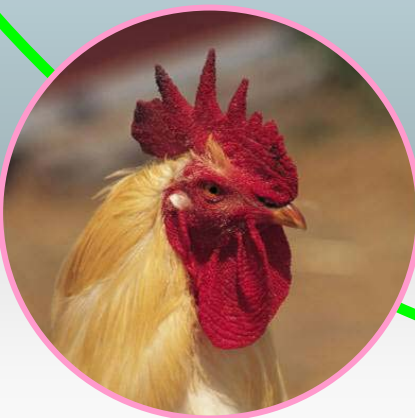
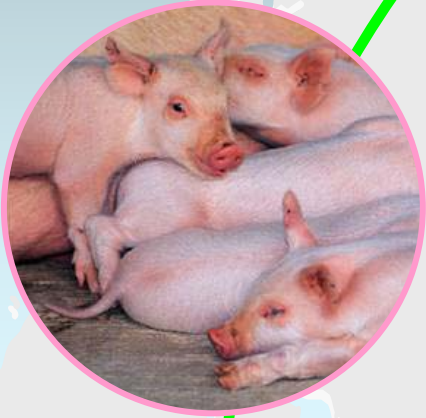




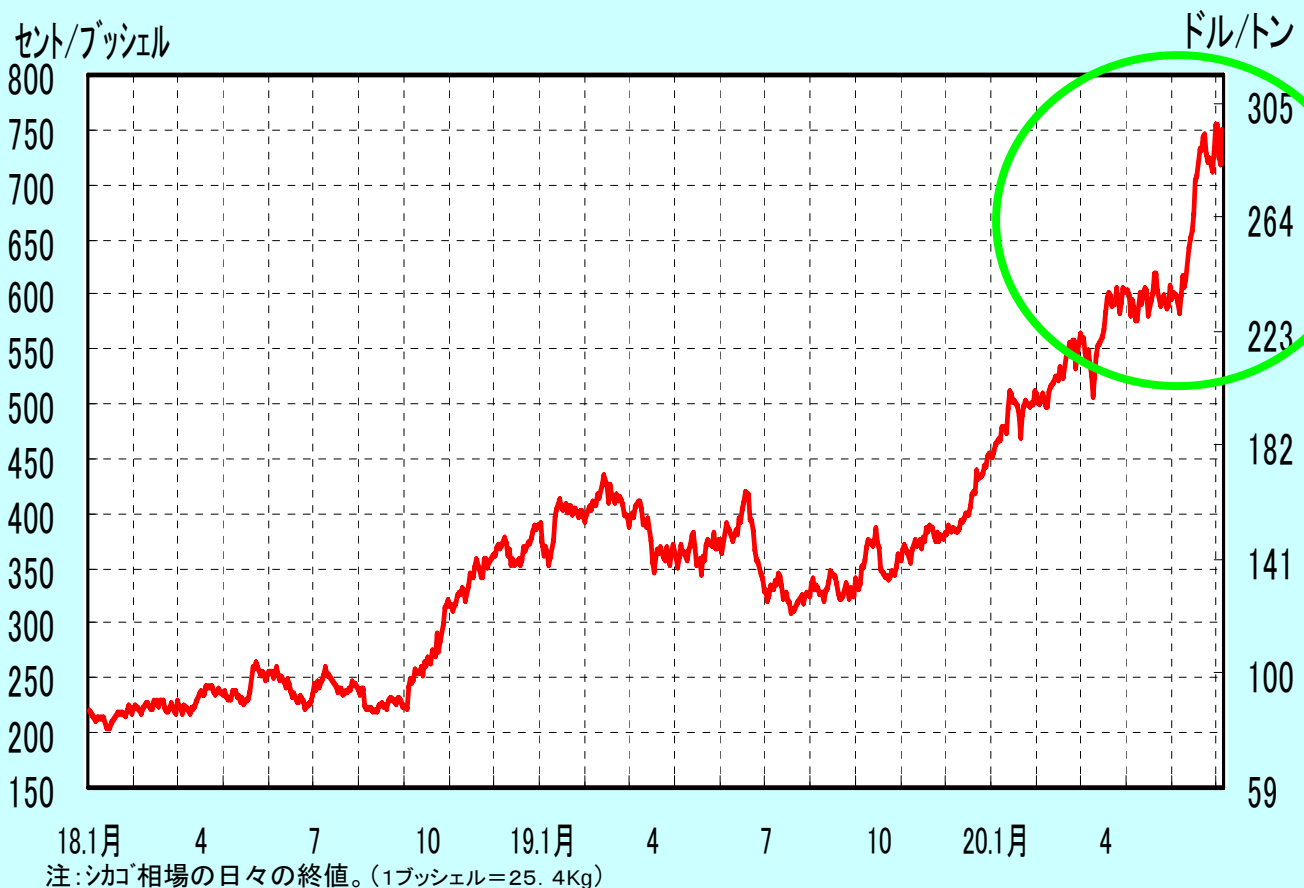
畜産物の生産コストは 上昇し続けています！

安全・安心な国産畜産物を
安定的に供給するため、
生産者は日々努力しています。
しかし、家畜のエサ価格の値上がりは
とどまるところを知らず、
日本の畜産経営は
非常に厳しい状況です。

家畜の主食、とうもろこしの価格が 上昇し続けています。

- 家畜のエサには大きく分けて、「植物の葉や茎(粗飼料)」と「穀物(配合飼料)」の2種類があり、高品質な畜産物を効率よく生産するためには、両方をバランス良く給餌することが、必要です。
- このうち、配合飼料の原料の半分はとうもろこしです。
- とうもろこしの93%はアメリカから輸入されています。
- とうもろこしの価格は、中国やインドなどの新興国の経済発展による需要増や、主産地である米国でのバイオエタノール向けの需要増などの影響を受けて、平成18年秋以降、急激に上昇を続けています。

<とうもろこしのシカゴ相場の日々の推移>

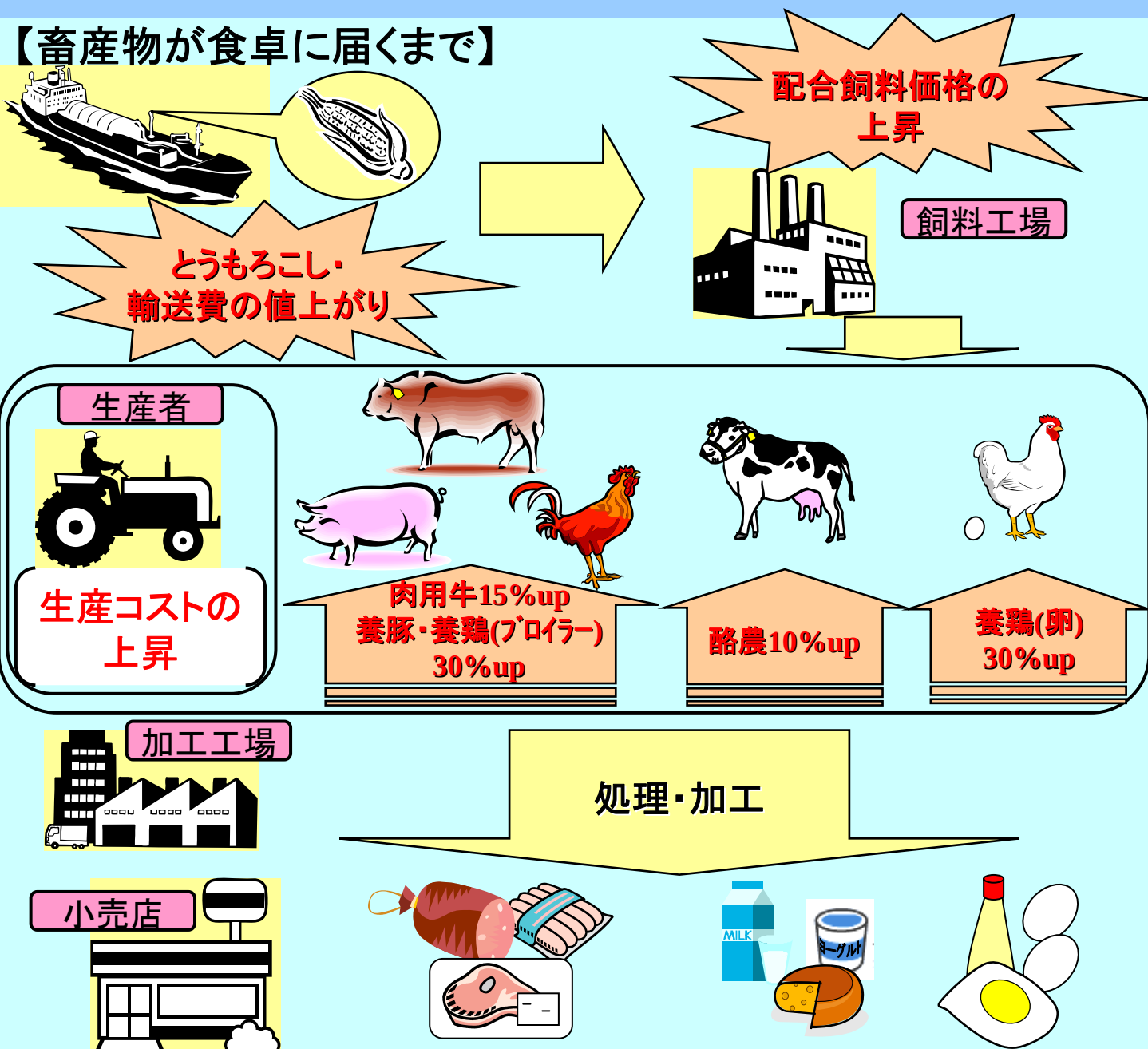


とうもろこし価格の上昇により、 畜産物の生産コストも上昇しています。

- とうもろこし価格の上昇の影響で、生産者が負担する飼料代も上昇しています。また、輸送費(海上運賃)の値上がり等の影響も受けています。
- 現在、2年前と比較し、飼料価格が5割上昇し、畜産物の生産コストを、10～30%上昇させています。
- 飼料代の割合も、2年前は生産コストの40～60%でしたが、既に50～70%程度へ上昇しています。

(農林水産省試算(H18年7-9月期からH20年7-9月期))

【畜産物が食卓に届くまで】



生産者は、これまでも絶え間なく
コスト低減や自給飼料の増産に向け
努力してきています。
今後もさらなる削減に向け、頑張っています。

生産性の向上に努めます

- ・ 家畜の管理を適切に行い、病気を予防します。
- ・ 発育段階に応じて飼料のムダをなくします。

さらに

未利用資源の飼料化に取り組んでいきます

- ・ 食品残さなどの未利用資源を安全性にも配慮して、飼料として加工し、利用していきます。

エコフィード(食品残さの飼料化)の利用



これまでは、おいしい良質な畜産物を少しでも安く生産するために、安価だった輸入とうもろこしに依存してきましたが、これからは、飼料の原料をできるだけ輸入に頼らないようにするため、国産の飼料を作り、利用する取組(飼料自給率の向上)を強力に進めていきます。

特に粗飼料の自給率100%を目指します(平成18年度77%)。

牧草等(粗飼料)の生産・利用を進めていきます

- ・ 栄養価の高い国産飼料(青刈りとうもろこし、稲発酵粗飼料、飼料用米など)の利用
- ・ 水田や耕作放棄地などを活用した放牧



青刈とうもろこし



稲発酵粗飼料

稲わらの利用



飼料用米の利用

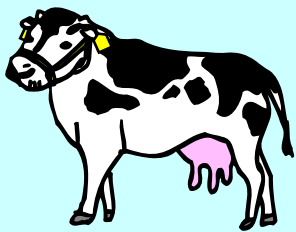


耕作放棄地放牧

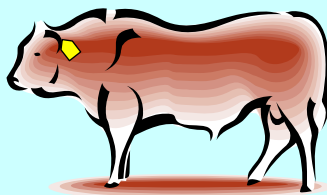
しかし、最近のコストの上昇は、 生産者の努力だけでは、吸収できません。 皆様のご理解をお願いいたします。

- コスト上昇分は、生産者の努力だけで吸収できる範囲を超えています。このままでは生産者は国産畜産物の安定的な供給が、できなくなってしまうです。
- しかし、皆様に少しの負担をしていただければ、これからも安全・安心な国産畜産物の生産を続けていくことが可能です。
- 生産者は皆様に安全・安心な国産畜産物を供給するために、今後も精一杯努力していきます。このような生産者の現状をご理解いただき、ぜひとも応援団になってください！

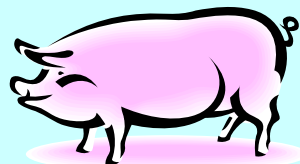
飼料価格の上昇分を4月現在の小売価格に 反映させた場合の上昇額



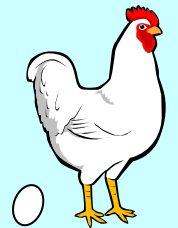
生乳
1,000mlあたり
6円↑※



牛肉
肩肉100g
あたり 26円↑



豚肉
ロース肉100g
あたり 12円↑



卵
10個あたり
25円↑

※生乳については、牛乳の小売価格ではなく、生産者が乳業メーカーから受け取る価格（都府県）

●小売価格には、流通段階における経費等を含みますが、本試算は配合飼料価格の影響についてのみ試算したものです。

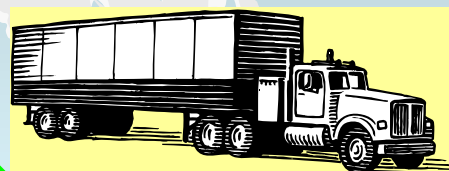
農林水産省試算値（平成20年7月時点）

飼料価格高騰等の畜産をめぐる 状況変化への理解醸成のための 中央推進協議会について

農家の状況を皆様に理解して頂くため、生産者、加工・流通業者、消費者の情報共有が重要と考え、理解を醸成する場として、協議会を設置しています。

消費者団体

- 生産者や加工・流通業者の取組について、消費者へ情報を発信



加工・流通業者

- 加工・流通コスト縮減に取り組む
- 小売店、量販店等へ理解を要請

情報共有
を推進

生産者

- 生産コスト縮減に取り組む
- 加工・流通業者、消費者へ情報を発信



もっと知りたい方は・・・

<http://www.maff.go.jp/lin/06-siryou.html>

お問い合わせはこちらまで！

農林水産省生産局畜産部畜産企画課企画班

TEL03-3502-8111(代表)